

日 時 平成 23 年 7 月 12 日 (火) 15:00-17:00

場 所 地盤工学会 地下 A 会議室

出席者 宮田委員長, 高橋幹事長, 枝広委員, 篠田委員, 本田委員, 松島委員, 藪委員

欠席者 岡島委員, 河野委員, 小浪委員, 平野委員, 松本委員, 森川委員

(議事録: 高橋)

配布資料

資料 1 : 平成 22 年度第 3 回委員会の議事録 (案)

資料 2 : 防災・減災のためのメニュー (耐災対策工法など) とその最近の災害

(東北地方太平洋沖地震を含む) におけるパフォーマンスについての整理結果

前回資料 3-1 : 今後の進め方に関するメモ (宮田委員長)

参考資料 3 : JGS 4001-2004 への適合度チェック項目 (案)

当日追加資料: 宮田委員長 (シンポジウム企画素案), 本田委員 (電力, タンク), 藪委員 (道路土工)

議事

1. 前回委員会の議事録の確認

資料 1

- ・ 高橋より, 前回議事録案について説明があった。

2. 防災・減災のためのメニューとその最近の災害におけるパフォーマンスについての整理結果

資料 2, 当日追加資料

- ・ 防災・減災のためのメニューとその最近の災害におけるパフォーマンスについて, とりまとめて頂いた各委員に説明頂いた。その際に出た主な質問・コメント等は以下の通り。
- ・ 宅地
 - サンドコンパクションパイルの液状化に対する有効性が確認できた。プレロードについては, 広範囲に実施した箇所については液状化に対する有効性が確認できた (浦安地区)。
 - 基本的に, 事前に排水処理を適切に行っていた箇所では大きな被害は起きていない。
- ・ 堤防
- ・ ため池
 - 被害パターンは, 上流側の法面すべりと下流側のそれとに大別できる。上流側のすべりのほうが大きな損傷につながっているケースが多い。
 - 藤沼ダムは, 地震による沈下によって越流が発生し, その結果決壊したと推察される。
- ・ 用水路
 - 水路の複線化が実施されている区間はあるが, 災害時の減災を狙ったものではなく, そのほかの目的がある場合がほとんどである。
- ・ 港湾・空港
 - 事前対策が行われた箇所で, その有効性が確認されている (矢板護岸の 2 段タイ工法, 薬液注入による地盤改良)。
- ・ 道路土工

- ▶ 詳細な被害分析がなされており，有用な情報である。
- ・ 電力施設・タンク
 - ▶ 発電所での観測記録と想定加速度の比較が公表されており，比較的良好的ようである（想定地震に対する耐震安全性評価は審議中であった）。
 - ▶ サンドコンパクションパイルによる沈下抑制や，深層混合処理による側方流動抑制効果が確認できている事例がある。そのほか，液状化が生じた埋立地のサンドドレーン打設箇所で噴砂が生じなかったという事例もある。

3. 今後の進め方について

前回資料3-1，参考資料3，当日追加資料

- ・ 宮田委員長より，今後の進め方案について説明があった。
 1. 現行の基準類の性能規定等についての現状，対策等の有効性を確認した事例については，これまでの調査で概ね分かった。
 2. 各構造物の設計基準等を，学会基準（性能設計概念に基づいた基礎構造物等に関する設計原則）と照らして評価し（参考資料3のように），その改訂に役立つような資料をまとめる。
 3. 上記1,2を簡潔にまとめて，本委員会の成果とする。更に来年5月ごろにシンポジウムを開催し，委員会の成果を発表するとともに，特別講演，一般発表（論文の公募）を行ってはどうか。
- ・ 上記について大枠で了承。目次案，分担，シンポジウムの案については幹事団で詳細をつめる。

4. その他

- ・ 次回は，平成23年9月15日（木）15時～，JGS会館にて

以上